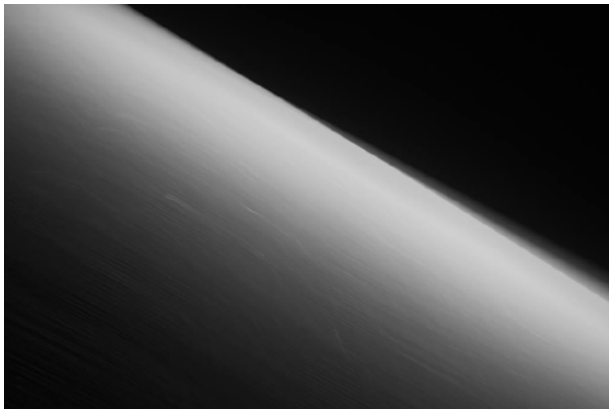


“余色の閃き” Shuko TERADA



“microcosmos” Masatake MATSUBARA



“原寸大の月の輪郭” Hitosugi WATANABE

The Golden Record

2014年9月6日（土）～28日（日）

12時～19時（最終日17時まで）

月曜日・火曜日休廊

ギャラリートーク

9月27日（土）14時～15時30分

寺田就子×松原正武×渡辺一杉

寺田就子、松原正武、渡辺一杉による展覧会を開催致します。

宇宙における時空間の概念から、新たな世界観や美意識を創造する領域として、宇宙芸術への関心が高まっています。

実像と虚像とが入り交じった光景や、透明感ある色と光りが、独特のコスモロジーを呈する寺田就子。

自然のイメージを通して、動視線感覚に揺さぶりをかける松原正武の写真・映像作品。

経験の背景に愚直に迫ろうとする姿を、異常なまでにシンプルな要素で可視化する渡辺一杉の月の原寸大作品。

3名のアーティストによる<宇宙と芸術=SPACE ART>の世界をご紹介します。

The Golden Record

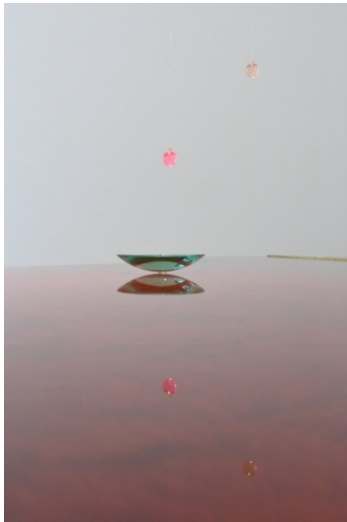
1977年に打ち上げられた探査機「ボイジャー1号」が、太陽系を脱していたことが昨年、わかりました。

人類が作った人工物が、初めて太陽系外の恒星間空間に進出したのです。太陽系の果てに向かう途中の1990年、ボイジャー1号は故郷を振り返り、はるかかなたとなった太陽と惑星たちを撮影しました。太陽系一家の写真は、「ファミリーポートレート」と呼ばれます。

その中で「はかなくて青い点にしか見えないのが地球だった」。

ボイジャーは世界55言語によるあいさつが録音され、地球の位置も記録した「ゴールデンレコード」を搭載しています。

宇宙のどこかにいる知的生命体へのメッセージです。



寺田就子 *Shuko TERADA*

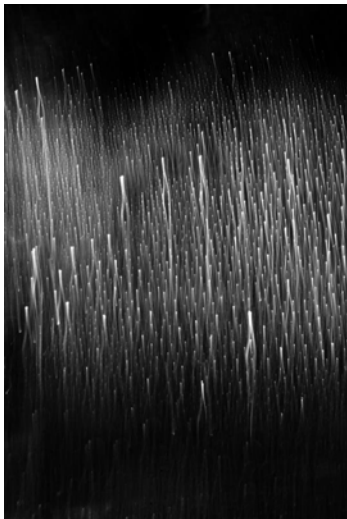
1973 大阪府生まれ。1997 京都市立芸術大学版画専攻卒業。

光りが反射する鏡や、透過するガラスを組み合わせ、透明感あふれる作品を制作する。

儚さと懐かしさの記憶を湛えながら、生み出されるオブジェには大きな宇宙の波動が漂う。

2013 「pink noise」(GALLERY CAPTION/岐阜)、「窓と物語 Vol.02」(waitingroom/ 東京)、「雨滴のレンズ」(GALLERY CAPTION/岐阜)、「ほのめく音色」(ギャラリーあしやシューレ/兵庫)

2012 「オレンジに灯る影」(Port Gallery T/大阪)、「影の透きまに眩う」(galerie 16/京都)、「blue moment」(GALLERY CAPTION/岐阜)、「うすらい」(GALLERY CAPTION/岐阜)、「うつせみ」(常懐荘/愛知)



松原正武 *Masatake MATSUBARA*

1975 大阪府生まれ。

すべては交ざり合い、混沌と秩序の中から新しい生命が生まれる『実験と多様性』をテーマに制作する。

削色写真、砂紙写真、油絵写真、有機写真、溶解写真、研磨写真、硬化写真、金属写真、偽色写真、彫刻写真、紫変写真、複合写真、貫入写真、胡粉写真、顔彩写真、黒鉛写真、白薄写真、黒薄写真、水光写真、光色写真、多層写真、接着写真、流膠写真、多重写真など、多くの手法を通して新たなイメージの作品を制作。今回は、宇宙をイメージした映像作品も出品する。



渡辺一杉 *Hitosugi WATANABE*

1977 滋賀県生まれ。2004 京都市立芸術大学彫刻専攻卒業。

宇宙から見た地球の輪郭や、地球から見た月の輪郭を、原寸大で描こうとする作品などを制作。地球は100mで約0.2mm、月は100mで約0.7mm湾曲しているという計算にもとづき、100mの特製ロール方眼紙上に、シャープペンシルで10倍のルーペをのぞきながら一本の巨大な円弧の一部を描いていく。

2013 「ゲンビどこでも企画公募2013」椿昇賞受賞(広島市現代美術館/広島)

2011 「アーツチャレンジ2011-新進アーティストの発見 in あいち-」(愛知芸術文化センター/愛知)

2005 「第8回岡本太郎記念現代芸術大賞展」(川崎市岡本太郎美術館/神奈川) / 「群馬青年ビエンナーレ05」(群馬県立近代美術館/群馬)